Y8-1
入職時研修における赤十字教育の実際

山田赤十字病院　研修センター
○小林（こばやし）　美香子（みかこ）、石谷　操、宮門　郁代

【はじめに】当院では平成18年度より、全職種を対象にした職員「コンピテンシー育成の指標」を作成し、赤十字の理念に基づいたカリキュラムデザインの下、研修を実施している。平成20年度からは入職時研修期間中に赤十字教育に関する研修日として1日を設定している。今年度はじめて赤十字教育に関する研修開始時に社長講話映像（DVD）を活用し、研修運営を実施したので報告する。
【研修概要】1．日時：平成21年4月7日。2．対象：平成21年度新入職員89名。3．研修内容：（1）社長講話映像（DVD）の視聴、（2）赤十字の誕生と国際的な仕組み、国際赤十字・赤新月運動の基本原則、日本赤十字社の発足と組織、（3）国際人道法、日本赤十字社の活動。4．講師：看護師長1名、支部職員1名。5．研修評価：研修終了直後に無記名式のアンケート調査を実施した。
【結果】アンケート回収率は99％であった。5段階評価にて「赤十字の組織人として自覚を持って業務に入れそうか」については、4.4であった。研修の満足度については、4.5であった。（1）社長講話映像視聴に関する自由記述率は70％であり、「社長の顔を拝見でき、社長の考えを知ることができた」「日本赤十字社5万人の1人として、誇りを持って働きたい」などの記述があった。研修内容（2）（3）についても、講義中に視聴覚教材（DVD）の効果的活用がなされたことにより、「難しい内容も理解しやすかった」「日赤に入社したからには救護活動にも参加したいと思った」などの反応を得ることができた。
【考察】入職時研修において社長講話映像をはじめとする視聴覚教材の積極的活用は、赤十字の組織人としての自覚を促し、職員意識の醸成を図るために効果的であると考えられた。今後も引き続き、全職種を対象に「コンピテンシー育成の指標」に基づいた赤十字教育を積み重ねていきたい。

Y8-2
国際医療救援・開発協力要員のための院内における人材育成～看護職～

名古屋第二赤十字病院　国際医療救援部[1)]、
名古屋第二赤十字病院　看護部[2)]
○伊藤（いとう）　明子（あきこ）[1,2)]、白子　順子[1)]、片岡　笑美子[2)]、
赤塚　あさ子[2)]

日本赤十字社では2002年から国際活動への迅速かつ積極的な人的な貢献を目指し、国際医療救援拠点病院（以下拠点病院）を指定した。2006年看護職の赤十字医療施設キャリア開発ラダーの導入により、日本赤十字社国際活動キャリア開発ラダー（全職種:医師・看護職・事務職）が検討され、今年度導入予定になっている。しかし、国内の医療施設における国際活動に必要な研修は、標準化されたものはなく、また各拠点病院に一任されているのが現状である。当院国際医療救援部では、2007年から国際医療救援部付け看護師を配属し、国際医療救援・開発協力（以下国際活動）要員に必要な看護実践能力の向上を目標に、院内外の研修を通して、国際活動要員の人材育成を開始している。研修全体の目標は、1.国際医療救援・開発要員に必要な看護実践能力を習得する、2.自己の課題達成に向け、具体的な方法を考え実施評価できる、3.様々な環境への適応能力を高める、である。研修領域は、1.産科領域、2.小児領域、3.腹部外科領域、4.整形外科領域、5.救急外来研修、6.内科領域、7.ICU、等を各看護師のキャリアに応じて研修プログラムを立案し、実施している。研修方法は、各看護師は各研修単位での目標を立案・提出し、研修の中間・最終には研修単位の師長、国際医療救援部担当者、研修看護師により評価を行っている。今後は、当院で行っている院内研修の意義、目的及び目標、有効性や課題等を明確にし、日本赤十字社拠点病院における国際活動看護職の人材育成プログラムの標準化を考える。